

授業概要

本講義では、明治の代表的啓蒙思想家であった福沢諭吉の教育論に関するいくつかの論説を読んでいく。福沢は、日本が封建制から近代国家へと転換するなかで、日本の教育はどうあるべきかを説きつつ、人類の幸福の実現という観点から、独立した個人が主体的に学ぶことの重要性を説いた。こうした福沢の教育論は、知識と教養を備えた人間の生き方を考えるうえで極めて示唆に富んだものといえる。テキストの精読を通して、学問の意義を理解することを心がけた講義を行う。

なお、この講義は文語体の文章に読み慣れることをも意図しているので、授業においては受講生に音読してもらった上で現代語訳してもらい、解説を加えていくスタイルをとることとする。

授業計画

第 1 回	授業の進め方の説明
第 2 回	天賦人權と学問の必要
第 3 回	自由と独立
第 4 回	国民の責任
第 5 回	中津留別の書
第 6 回	教育の目的（その一）
第 7 回	教育の目的（その二）
第 8 回	教育の目的（その三）
第 9 回	学者安心論（その一）
第 10 回	学者安心論（その二）
第 11 回	学者安心論（その三）
第 12 回	学者安心論（その四）
第 13 回	徳育如何（その一）
第 14 回	徳育如何（その二）
第 15 回	徳育如何（その三）
第 16 回	筆記試験

到達目標

- (1) 福沢の思想から、教育や学問の本質を学び取る。
- (2) 言葉の意味を調べながら、文章を読む習慣を身につける。

履修上の注意

- (1) 「講読」の授業なので、じっくり腰を据えて文章を読む意志のある学生を対象とする。
- (2) 遅刻 3 回で欠席 1 回と見なす。

予習・復習

- (1) わからない言葉の意味や読み方を辞典などで調べながら、授業で取り上げるテキストの箇所を毎回必ず事前に読んで予習すること。
- (2) 授業で読んだ箇所は、内容をしっかりと把握するためにも、読み返すなどの復習を行うこと。

評価方法

- (1) 受講態度（特に予習不足の場合は「減点」の対象とする） 70%
- (2) 学期末試験〔論述形式〕 30%

テキスト

授業の際に、使用するテキスト資料を配付する。